

### <参考3> フィリピンの電力事情について

#### 1. フィリピンと東京電力の比較

	フィリピン	東京電力
発電設備	1,580.3 万 kW	6,183.5 万 kW
水力	325.7 万 kW(20.6%)	899.3 万 kW(14.5%)
火力	1,054.2 万 kW(66.7%)	3,553.0 万 kW(57.5%)
地熱	197.8 万 kW(12.5%)	0.3 万 kW(0.0%)
原子力	-	1,730.8 万 kW(28.0%)
新エネルギー	2.6 万 kW(0.2%)	0.1 万 kW(0.0%)
最大電力	862.9 万 kW(2005)	6,430 万 kW(2001.7)
販売電力量	567.8 億 kWh	2,876.2 億 kWh

\* フィリピンは2006年12月末時点、東京電力は2007年3月末時点。  
\* フィリピンの最大電力は、2005年12月までの実績。

#### 2. 国営フィリピン電力公社(NPC)について

エネルギー開発・利用等政策の企画・立案・監督などを担当するエネルギー省の下で、国営フィリピン電力公社は、発電事業、IPP契約などを担っている。今後フィリピン政府は、NPC発電資産を民間に売却し、IPP契約はPSALM(国営の電力部門資産・負債管理会社)に移管する予定。

#### 3. 電力需要

両社がIPP事業を行うルソン地域では、2014年にかけて最大電力が年平均4%程度増加すると予想されており、2010年頃から電力需給の逼迫が深刻化すると予想されている。

以上